

第 55 回医療薬学公開シンポジウム開催報告書

第 55 回医療薬学公開シンポジウム
実行委員長 石井伊都子

平成 26 年 10 月 19 日（日）に千葉大学薬学部創立 120 周年記念講堂にて第 55 回医療薬学公開シンポジウム（主催：日本医療薬学会、後援：千葉県病院薬剤師会、千葉県薬剤師会）を開催した。

本シンポジウムは病棟薬剤業務をテーマとし、平成 24 年度の診療報酬改定時に新設された「病棟薬剤業務実施加算」に対する業務の状況、医師や看護師から病棟での業務について薬剤師に求めることなどを薬剤師 4 名、医師 1 名、看護師 1 名からご講演いただいた。参加者は 86 名で北は北海道や青森県、西は岡山県や兵庫県など全国からの参加があった。

シンポジウムⅠでは、東京女子医科大学八千代医療センター薬剤部の小坂好男先生に「病棟薬剤業務実施加算の申請の注意点と現状」について、千葉県済生会習志野病院薬剤部の岸本大裕先生に「病棟薬剤業務実施加算への取り組み」について、千葉県がんセンター薬剤部の内山由貴先生には「千葉県がんセンターにおける病棟業務の実施状況 ～新人の奮闘記～」について、また佐久医療センターの斉藤まゆみ先生には「チーム医療における薬剤師の役割 ～看護師の立場から～」についてお話しいただき、各施設の状況や看護師から薬剤師に求めることや自施設での薬剤師の取り組み事例を紹介していただいた。シンポジウムⅡでは、千葉大学医学部附属病院の状況を薬剤部の中村貴子先生、血液内科医師の中世古知昭先生にご講演いただいた。特に医師の立場からは米国でも先進的なチーム医療を実践している病院の事例が提示され、最適な医療に向かって専門性を発揮する必要性についてのお話をいただいた。最後に全演者と参加者による総合討論を行った。

本シンポジウムは上記のように薬剤師の病棟業務について順調に取り組みを始めている施設、これから発展させる準備をしている施設、新人が四苦八苦しながら奮闘して業務を行っている状況、また看護師や医師の立場からチーム医療の中で薬剤師に求められている役割など多くの視点から病棟業務を考える企画とした。各施設により置かれている状況は異なるが、本シンポジウムを通して、病院の規模や新人・ベテランなどどの立場の薬剤師にとっても最適な医療を提供するために目指すべきことを考えていただけることを期待している。

最後に、今回のシンポジウム開催にあたりご後援いただいた千葉県病院薬剤師会、千葉県薬剤師会、さらに我々の不慣れな企画・運営を終始懇切丁寧に支援いただきました日本医療薬学会事務局の方々に厚く御礼申し上げます。